

カンジダ・アウリスの臨床、行政対応 アウトブレイクへの備え – 第2回 – AMR Online seminar “Candida auris”

近年、諸外国において、多剤耐性で重篤な感染症を引き起こす恐れのあるカンジダ・アウリス(*Candida auris*)による、血流感染症等の侵襲性感染症の事例が多数報告され、問題となっています。カンジダ・アウリスは、環境中で長期間生存するため、集中治療室(ICU)などでの医療機器を介したアウトブレイクの事例が、米国等から複数報告されています。院内で環境面への接触を含む接触感染等によりヒトからヒトに容易に伝播し、侵襲性感染症例は高い致命率を示します。抗真菌薬への薬剤耐性率が非常に高く、米国CDCによると、分離株の約1/3が2種類以上の抗真菌薬に耐性であることが報告されています。加えて、現状では臨床現場で使用可能な全ての種類の抗真菌薬に耐性である株の報告もあり、薬剤耐性(AMR)対策の観点からも非常に重要な真菌種です。今般、国内初となる海外株によるカンジダ・アウリス真菌血症による死亡例が報告され、厚生労働省健康局結核感染症課からも注意喚起が発出されており、2024年10月30日には国立感染症研究所から日本国内のカンジダ・アウリス感染症の発生動向も報告されています。

日時: 2025年1月18日(土) 開会 10:00-12:30 (JST)

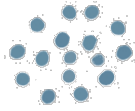
参加申し込み: https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_q5zfGOj5SSSbOmQwWFMn2w



プログラム

司会：石金 正裕
AMR臨床リファレンスセンター

- 10:00 開会挨拶：宮崎 義継 国立感染症研究所 真菌部 部長
- 10:05 「日本での感染防止対策の経験」
大澤 良介 亀田総合病院 感染症内科 部長
- 10:35 「米国での重症例などの臨床経験」*米国よりオンライン
兒子 真之 ヒューストン・メソディスト Weill Cornell Medicine 感染症科 医師
- 11:05 休憩 (10分)
- 11:15 「英国視察から得られたカンジダ・アウリスの発状況」
加藤 博史 国立感染症研究所 実地疫学研究センター 第一室 研究員
- 11:30 「国内の事務連絡上で依頼している報告方法概要と報告状況」
中下 愛実 国立感染症研究所 実地疫学研究センター 第一室 研究員
- 11:45 「国内菌株サーベイランスのアップデート」
阿部 雅広 国立感染症研究所 真菌部 第一室 室長
- 12:15 Q&A
- 12:25 閉会挨拶：大曲 貴夫 国立国際医療研究センター 病院 副院長
(感染・危機管理担当,災害・救急担当)
AMR臨床リファレンスセンター センター長



プロフィール

大曲 貴夫 Norio Ohmagari

国立国際医療研究センター病院 副院長(感染・危機管理担当, 災害・救急担当) 総合感染症科科長(併任)
AMR臨床リファレンスセンター・センター長(併任)、国際感染症センター・センター長

佐賀医大医学部卒業、聖路加国際病院内科レジデント
2002年 テキサス大学ヒューストン校内科感染症科クリニカルフェロー 2004年 静岡県立静岡がんセンター感染症科医長、2007年同部長
2011年 国立国際医療研究センター 国際疾病センター 副センター長 2012年 同院国際感染症センター長
2017年 国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター長(併任)

宮崎 義継 Yoshitsugu Miyazaki

国立感染症研究所 真菌部 部長 ハンセン病研究センター長(併任)

1988年 長崎大学医学部卒業、同年長崎大学医学部附属病院 第二内科 研修医 1989年 佐世保市立総合病院 内科研修医
1990年 長崎大学大学院医学研究科 1994年 伊万里市立市民病院 内科勤務
1995年 米NIH (Nat Inst Allergy and Infect Dis) 感染症部門(Dr. John Bennett)フェロー
1998年 長崎大学医学部附属病院 検査部講師 2000年長崎大学医学部 第二内科 講師 2007年 国立感染症研究所 生物活性物質部 部長
2013年 真菌部設置に伴い国立感染症研究所 真菌部 部長、2019年 ハンセン病研究センター長(併任)

大澤 良介 Ryosuke Osawa

亀田総合病院 感染症内科 部長

2001年 東京大学医学部卒業 米海軍横須賀病院インターン、東京大学附属病院内科で初期研修
2003年 ベイスラエル病院内科レジデント 2006年 同チーフレジデント
2007年 ビッツバーグ大学感染症科/移植感染症科フェロー
2010年 ニューヨーク州立大学バッファロー校医学部感染症内科Assistant Professor、バッファロー総合病院とロズウェルパークがん研究所のスタッフ医師併任
2013年 ニューヨーク州エリー郡結核診療所Medical Co-Director併任
2018年から亀田総合病院勤務

兒子 真之 Masayuki Nigo

ヒューストン・メソディスト病院・Weill Cornell Medicine 感染症科医師
Associate Professor of Clinical Medicine 癌・移植感染症フェローシップ 副ディレクター

2005年 福井大学医学部卒業 茅ヶ崎徳洲会病院レジデント 2013年ニューヨーク・ベイスラエル病院内科研修修了
2016年 テキサス大学ヒューストン校内科感染症科フェロー修了 2016年同大学感染症科Assistant Professor
2022年 同大学Associate Professor 2023年School Biomedical InformaticsにてMaster取得
2023年より現職 ヒューストン・メソディスト感染症科・免疫抑制感染症部門

加藤 博史 Hirofumi Kato

国立感染症研究所 実地疫学研究センター 第一室 研究員

2009年 金沢大学医学部卒業
2018年 東北大学大学院 医学系研究科 博士課程修了(医学博士)
旭中央病院、都立駒込病院で臨床研修
国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース(FETP)修了後、同ウイルス第一部
テキサス大学医学部ガルベスタン校を経て現職

中下 愛実 Manami Nakashita

国立感染症研究所 実地疫学研究センター 研究員、併任 同 薬剤耐性研究センター 第四室

2008年 東北大学薬学部卒業
2010年 東北大学大学院薬学研究科 博士課程前期修了(薬学修士)
2010年 新潟市民病院 薬剤部
2020年 国立感染症研究所 実地疫学専門家養成コース(FETP)
2022年より現職

阿部 雅広 Masahiro Abe

国立感染症研究所 真菌部 第一室 室長

2010年 東北大学医学部卒業 2019年東北大学大学院 医学系研究科 博士課程修了(医学博士)
2010年~2016年 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 初期・後期研修の後臨床感染症科医員
2018年 国立感染症研究所 真菌部 研究員 2022年 同主任研究官を経て同年10月より現職

石金 正裕 Masahiro Ishikane

国立国際医療研究センター 国際感染症センター 医師
AMR臨床リファレンスセンター 新興再興感染症とAMRのWHO協力センター focal point(兼務)

佐賀大学医学部卒業(東北大学大学院卒業)
2007年 佐賀大学医学部卒業 沖縄県立北部病院 聖路加国際病院、
国立感染症研究所 実地疫学専門家養成コース(FETP)を経て2016年より現職
WHO協力センターとしてWPRO域内の新興再興感染症の臨床マネージメント・感染対策やAMR対策も実施

